

## 行政視察報告

(会派 令和クラブ)

### <視察目的>

#### ・山口県庁及び山口県下関市

島根県にも要望している中海架橋建設に向け、角島大橋橋梁整備事業について説明並びに現地視察をし、今後の活動に活かすため調査・研究し、参考にするため。

### <視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
11月20日(水)	山口県山口市	山口県庁	・角島大橋橋梁整備事業についての説明
11月21日(木)	山口県下関市豊北町	海士ヶ瀬公園、角島大橋、角島灯台公園など	・角島大橋橋梁整備事業関連の現地視察

### <視察概要報告>

#### 1. 山口県

●対応部署：山口県 土木建設部、下関土木建設事務所職員

●説明概要：

#### ・角島大橋橋梁整備事業について

〈概要〉

角島大橋は、一般県道角島神田線として過疎地域市町村道代行事業として整備された橋梁です。事業期間は平成3年度から12年度までで総事業費約149億円(国99億円、県約50億円)、橋梁建設費は約132億円、橋長は1780m、有効幅員6.5m(歩道なし)、道路規格は第3種第4級です。

〈建設の背景〉

角島は山口県下関市豊北町の西北部約1.5キロの響灘に位置する離島(面積3.8km<sup>2</sup>で、当時人口約800人)。架橋建設前までは、本土とは1日7便の町営渡船により連絡していましたが、冬季風浪時には欠航も多く、本土に頼らざるを得ない日常生活に支障が生じていました。そのため、角島大橋建設は島民から「夢の懸け橋」としてその早期実現が強く要望され、平成12年11月に完成しました。

〈現状〉

現在では、離島解消のみならず観光振興や緊急時の対応、産業の活性化、生活圏の拡大など多くに貢献しています。

## <考 察>

### ○金山 満輝

中海架橋建設を各方面へと要請するにあたり、よく対比されるのが鳥取県境港市と島根県松江市との間にかかる江島大橋。2004年建設（PC5径間連続有ヒンジラーメン箱桁橋）L=1446M、橋の海面からの最高位は44.7M、総事業費228億、Mあたり158万円。他方下関市角島大橋は2000年建設、プレキャスト工法を多用しながらコンクリート現場打ちでなく、超大型起重機船によるケーソン基礎、鋼橋のブロック架設を採用L=1780M、海面からの最高位は18.0M

（現在の米子港では充分高）、総事業費149億円（橋梁建設132億円）Mあたり74万円。中海架橋建設事業には200億円とも250億円ともいわれるが、角島大橋建設型式ならば中海架橋建設には80～90億円程度にて建設可能なのではないのか。架橋への市民意識高揚と県・国への働きかけがをさらに進めなければと認識をした。



山口県庁で担当部より説明を受けているところ

### ○遠藤 孝

11月20日 山口県庁を訪問しました、道路建設課 主査他4名の職員から角島大橋の建設に至るまでの経緯を聞き取り調査させていただきました。建設に至る背景として、大橋架橋建設前までは本土と1日7便の町営渡船により連絡していたこと、しかし日本海特有の冬季風浪時には欠航も多く、医療・教育・消防など本土に頼らざるを得ない日常生活において支障が生じていたことがありました。このため島民より角島大橋の早期実現が強く望まれ、平成3年に補助事業として新規採択され、平成12年11月に完成したとのことです。

翌21日には角島大橋の現場に赴き、見学と説明を受けました。1446メートルの大橋は自然ともよくマッチングして美しく、多くの観光客が訪れるのは当然のこととと思いました。総工費は149億円と聞き、これなら中海架橋も実現できるものとの強い意識を持ちました。それ以上に架橋のイメージができたことが何よりも良かったと思います。

### ○中村 健二

中海架橋早期実現する安来・米子議員連盟の有志で角島大橋橋梁整備事業を視察した。安来市から遠藤、金山、樋野、作野、岩崎、中村の6名、米子市から8名の14名で視察した。中海架橋建設に向けて要望活動を行っていく中で、2004年建設された鳥取県境港市と島根県松江市江島を結ぶ江島大橋の事業費との比較が上げられる。ヒンジラーメン箱桁橋を採用し総事業費は228億円、長さは1446m 橋の最高位は44.7m。

2000年に建設された角島大橋は、プレキャスト工法により実施、超大型起重機船によってケーソン基礎、橋桁のブロック架設採用していた。長さは1780m、最高位は18m、総事業費は149億円。橋は歩道なしで建設されており、生活道路の考え方を重視している。中海架橋の長さはおよそ800mであり、角島大橋の建設方式であれば70～80億円で建設できるのではと感じた。沢山の費用が必要との概念を払拭し意識改革が必要と認識した。離島では船が生活の基盤であり、天候によって大きく左右され島民上げての要望活動が実を結んだ結果と思った。中海架橋の実現に向けて更なる要望活動に邁進したい。



海士ヶ瀬公園より撮影した角島大橋の全景

### ○作野 幸憲

今回の角島大橋整備事業の視察は、次の点で大いに参考になった。

まずは建設費。中海架橋建設には、江島大橋の建設事業をもとに考えると巨額の費用が掛かると思っていたが、工法や海面からの高さなどを考慮すれば、かなり安く建設ができる可能性が出てきたこと。

建設後の維持管理費。これまでの公共施設の維持管理は、不具合が生じてから補修する「事後保全型」が主流であったが、この角島大橋もそうであるように早い時期から修繕を行う「予防保全型」の維持管理をすることにより、維持管理や更新等に係るトータルコストの縮減等が図れること。

そして要望活動。角島大橋建設に当たっては、昭和58年に業界団体や自治会の幹部をはじめ島民約300名で組織した期成同盟会が設立され、要望活動展開された。その中で特筆されるのが、年賀状作戦。地元の子供たちから地元選出の国会議員や知事、担当部長などに角島大橋の建設を熱望する年賀状を毎年送ったとのこと。このことが功を奏したかどうかはわからないが、アイデアを出し地域が一体となって要望活動することの大切さを改めて痛感したこと。

最後に今回の視察は、初めて米子市議会の議連メンバーと一緒に行ったもの。今回の視察を通じ、課題などについて共通認識を持つことができ、今後の活動に向け、一層の連携を深めていくことの重要性を再認識できたこと。

以上